

感染症の予防のための情報提供について【日本脳炎にご注意ください】

日本脳炎ウイルスは豚の体内で増殖し、蚊（コガタアカイエカ）を媒介して人に感染します。（日本脳炎ウイルスは人から人へは感染しません。）

三重県では、日本脳炎ウイルスの活動状況を把握するため、毎年初夏から初秋にかけて豚の抗体検査を実施しています。（厚生労働省協力事業）

今回、調査した豚の抗体保有率が注意報レベル^{*}を超えたことにより、感染予防等のため、注意喚起いたします。

蚊にさされないように気をつけましょう。特に屋外や豚の多い場所や水田、沼地の周辺（コガタアカイエカが発生する場所）は注意してください。

※調査した豚の日本脳炎に対するH I 抗体陽性率が 50%を超え、かつ 2-ME 感受性抗体（I g M 抗体）を検出。

- ・ H I 抗体陽性：過去も含め、日本脳炎ウイルスに感染したことを示す指標。
- ・ 2-ME 感受性抗体陽性：最近、日本脳炎ウイルスに感染したことを示す指標。

【今年度の検査結果】

	採血日	検査頭数	H I 抗体 陽性頭数	2-ME 感受性抗体 陽性頭数
1	7月14日	10	0	0
2	7月21日	10	0	0
3	7月29日	10	0	0
4	8月12日	10	0	0
5	8月18日	10	0	0
6	8月24日	10	1	1
7	8月31日	10	1	0
8	9月7日	10	3	0
9	9月14日	10	5	1
10	9月29日	10	8	1

（過去の注意喚起歴）

令和6年（9月11日）、令和5年（9月27日）、令和4年（8月24日）、令和2年（9月2日）、令和元年（9月26日）、平成29年（9月8日）、平成27年（7月31日）、平成21年（8月24日）、平成20年（7月16日）、平成19年（9月5日）、平成18年（9月6日）、平成17年（8月5日）

【日本脳炎の症状】

感染しても症状が現れずに経過する 경우가ほとんどですが、およそ 100 人から 1,000 人に 1 人程度発病する場合があります。発病した場合 20 から 40%が死に至るといわれています。症状が出る場合、6 日間から 16 日間の潜伏期間後、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などが現れ、引き続き、光への過敏症、意識障害、けいれんなどの中枢神経障害を生じます。

【予防接種】

日本脳炎は予防接種により罹患（りかん）リスクを減らすことができるとされており、予防接種法に基づく定期接種の対象となっています。

○第1期（3回）

初回接種（2回）：生後6月から生後90月に至るまでの間にある者

追加接種（1回）：初回接種終了後6月以上、標準的にはおおむね1年を経過した時期

○第2期（1回）：9歳以上13歳未満の者

【県民の皆さまへ】

1. 蚊に刺されないようにしましょう。
 - ・戸外へ出るときは、できる限り長袖、長ズボンを身に着けましょう。
 - ・露出している皮膚には、虫除けスプレーなどを使いましょう。
 - ・網戸を使用しましょう。（コガタアカイエカは「夜間吸血性」です。）
2. 蚊の発生を防ぐために、水たまり等をなくしましょう。
3. 日本脳炎ワクチンの定期接種を受けましょう。

【三重県・全国における日本脳炎患者発生状況（令和8年10月2日時点）】

年	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
三重県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全国	3	0	9	5	3	5	6	9	4	2※

※全国における発生数については、感染症発生動向調査の最新情報（9月13日時点）から計上しております。

日本脳炎を含め、感染症に関する各種情報を三重県感染症情報センターのホームページで提供していますので、ご覧ください。（<https://www.kenkou.pref.mie.jp/>）